

多摩大学rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



小野里 光博

Mitsuhiko Onosato

多摩大学大学院客員教授

講義内容についての質問とは別に、大学院生の個別の研究テーマについて相談を受けることが少なくない。そうした受け答えの中で、質問以外の内容についても議論をすることがある。そのときにしばしば話題に上る話で、大学の研究のみならず日々の仕事にも通底すると思われるものを紹介する。

「学びて思わざれば…」

論語・為政第二・十五に曰く、「学而不思即罔、思而不学即殆」（学びて思わざれば即ち罔（くら）し、思いて学ばざれば即ち殆（あやう）し）。

論語の解釈に通じている訳ではないので、ここでは差し当たり「学ぶ」とは客観的な理論や技術を習得すること、「思う」とは学ぶ主体が問題意識をもって思索することと理解しておく。するとこのくんだり、学ぶ者の問題意識と客観的な理論・技術の習得のいずれか一方が欠けても物事の理解や実践がうまくいかない旨を述べたものと解することができる。「学びて思わざる」例としては、いわゆる専門バカ・学者バカの類を、「思いて学ばざる」例としては、急進的な政治活動家や非科学的な医療行為の唱道者などを、それぞれ思い浮かべればよい。

最近の大学では、学びもせず思いもしない学生が増えてきているそうである。多摩大学社会人大

教授からのメッセージ 「三題噺」

学院にはそのような学生は存在しないと確信しているが、問題意識が漠然としていたり、基礎的な知識や技術の習得が不十分な学生が存在しない、とまでは断言できない。

知的枠組みとしての理論

学ぶべき対象は理論や技術だと述べたが、ここで理論とは、複雑な現実を理解するために、その本質的な部分を抽出・抽象化した（棄却されない）仮説の体系である。技術とは、そうした理論を踏まえて構築された特定の目的を達成するための手段の体系である。

現実のどの部分を本質的と考えるかは、当事者の問題意識に依存する。経済学と物理学では本質的と考える部分が異なることは明らかであろう。あるがままの現実には余りに複雑で多面的であり、しかも絶えず変化しているから、いかなる理論であっても、これを包括的に説明することができないのは自明の理である。むしろ現実はそのままでは説明できないという自覚があるからこそ、問題意識に照らして本質的と考えられる一面に焦点を当てるのである。

しかし世間一般では、理論というものは現実から遊離した知的遊戯の類に過ぎないとして、必ずしも好意的に受け止められていない風潮がある。だから理論に拘泥しないであるがままの事実を学ばなければならない、といった言説が大学の中でさえも行われるようになる。

インターネットに象徴される情報通信技術の発達により、現実の事実に関する情報は大量かつ迅速に取得できるようになった。しかし問題意識に応じて現実を理解するための知的枠組みを習得するためには、やはり一定の時間をかけて体系的に「学ぶ」ことが不可欠なのである。大学や大学院に通う第一義的な意味はそこにあると思う。新聞・雑誌を何十年間読み続けても、またネットサーフィンをいくら繰り返しても、それだけでは政治や経済や社会を正確に見る目は養われない。

「プロクルステスのベッド」(Prokrustesbett)

プロクルステスはギリシア神話の山賊で、自ら経営する宿に泊まった旅人をベッドに縛り付け、その身長がベッドよりも長ければベッドの大きさに合わせて頭か足を切り落とし、ベッドよりも短かければ足に縄を結びつけて骨が砕けるのも構わずに引き伸ばすという所業を繰り返していたという。

経済史家の大塚久雄は、この神話を例に引いて、史実を一定の理論や概念の枠に無理矢理押し込んで解釈することの愚を戒めている。理論や概念は事実や現象を抽象化した仮説に過ぎないのであって、具体的な現実には常に理論よりも複雑で豊富な内容を備えていることを忘れてはならないという訳だ。「地図は現実の地形にもとづいて作られたのであって、現実の地形が地図に従って作られたのではない。もし両者の間にいくちがいが見出されるならば、地図の読み方が正確である限り、もちろん訂正されねばならぬのはつねに地図の方であって、地形ではないはずである。」（「共同体の基礎理論」大塚久雄著・岩波書店）

前記の「知的枠組みとしての理論」の議論とは矛盾するように思えるかもしれない。しかし「学ぶこと」と「思うこと」と同様、理論と現実のいずれか一方に偏するのではなく、双方への目配り・両者間の往復運動が重要なのである。

終わりに

以上の三つの話は、重複する部分もあるが相補う部分もある。一見矛盾する部分もあるだろう。仕事をしながら学業・研究を続ける大学院生の参考になればと思って書いたつもりであったが、読み返してみると自分自身のために書いたような気がしてならない。

おのさと みつひろ：東京大学工学部卒
デベロッパー、シンクタンク勤務を経て、現在、株式会社東京工業品取引所執行役。本学では「経営基礎数学」、「ファイナンス数学」を担当。

公開授業&個別相談会 (品川キャンパス)

2月4日(水) 19:00~21:00

「ミクロ経済学とゲーム理論」

—経営に必要な経済学の知識—

瀧澤 弘和 准教授

東京大学大学院経済学研究科博士後期単位取得修了、スタンフォード大学経済政策研究所、経済産業研究所フェロー



2月17日(火) 19:00~21:00

「グローバル・ビジネス論」

—同時不況の世界経済と日本企業—

林川 眞善 教授

慶應義塾大学商学部卒、三菱商事(株)から三菱総研常務取締役、同顧問、帝京大学教授、現在本学アドミッションズオフィス主任



第1位は「港区の会社に勤務し、品川で学び、横浜の自宅に帰る」

勤務地ベスト5

- 1位 港区
- 2位 千代田区
- 3位 品川区
- 4位 渋谷区
- 5位 中央区

自宅ベスト5

- 1位 横浜市
- 2位 川崎市
- 3位 町田市
- 4位 相模原市
- 5位 大田区



平成20年春入試、秋入試に志願、エントリーされた64名の方の勤務地および自宅所在地を集計してみました。

その結果、約70%の方の勤務地が港、千代田、品川区など本学品川キャンパスの隣接区にあり、自宅は横浜市、川崎市、町田市など品川より西の方が約50%ということがわかりました。

このことから、社会人の方が夜間大学院を選ぶ重要な選択肢のひとつに「キャンパスの場所」があり、実際に本学を選んだ皆さんの多くが、「会社から帰宅のルートにある品川で学び、そして自宅に」という限られた時間を勤務と学業と家庭に有効に配分することに努力され

ている様子が目に浮かびます。

また、この調査から調布市、日野市、稲城市、町田市、相模原市といった多摩キャンパスの隣接市に自宅のある方が約30%に上っています。会社帰りの品川にも、休日土曜日の多摩にも通学が至便ということでしょうか。

一方、勤務地から品川までと、品川から自宅までが1時間半以上かかる方もそれぞれ10%近くおられました。これらの方がたは本学の特色ある授業を受講するために遠距離通学覚悟で志望されたということが推測できます。

平成20年秋入学生アンケート集計結果

平成20年秋に入学した学生にアンケートを行った結果がまとまりました。各設問のうち回答の多かったものは以下の通りです。

1. 入学の目的では？

- 1位 実務で培ってきた知識を体系的に整理したい！
- 2位 MBAコースで公私ともにネットワークを上げたい！

2. 本学を志望した動機は？

- 1位 実務家教員から最新の知識と指導を受けることができる！
- 2位 平日夜間に品川で学べる！

3. 本学を選ぶきっかけは？

- 1位 公開授業を受講して！
- 2位 AO入試の詳しい説明を受けて！

4. 入学してみても？

- 1位 知識が身についてくると実感している！
- 2位 仕事と家庭の中に学業が入ってきて大変！

5. 授業で触発されたことは？

- 1位 先輩のプレゼンテーション（1年後の自分を想像した！など）
- 2位 レポートを書くこと（使ってこなかった脳細胞が動きだした！など）



アドミッションズオフィス便り

春入学のためのAO入試は年明けから大分活発化し、面接日程も立て込んできました。エントリーは昨年10月から受け付けていますので、既に一次、二次の面接を終了し、内定を得て入学手続きを完了された方が何人もおられます。

例年は締切り間際の2月のエントリーが一番多く（前年は約20名）、これから本番という感じがですが、「百年に一度」という言葉が社会人対象のMBAだけに少し気にかかります。

とはいうものの、1月18日に開催した大学院説明会は田坂教授の基調講演もあって大盛況でした。これからエントリーをとお考えの方は、リードタイム（面接日程や手続きなど）を十分にとるためになるべく早い提出をお奨めします。

TGS 暦 (冬～春)

- 1/24 博士課程入試(筆記)
- 1/24 修士論文提出締切り
- 2/ 7 博士課程入試(口述)
- 2/14 修士論文最終試験
- 2/28 修士AO入試エントリー締切り
- 3/14 学位授与式
- 4/ 4 春期入学式

多摩大学rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



松本 忠雄

Tadao Matsumoto

多摩大学大学院教授

まつもと ただお:

大阪大学理学部化学科卒。同大学院理学研究科博士課程中退。花王(株)に入社。栃木総合研究所長、川崎工場長を経て、取締役ロジスティクス部門統括を歴任。この間、花王システム物流(株)および花王ロジスティクス(株)代表取締役社長を務めた。社外では、JILS、国交省、経団連の委員会等において活動。その後イオン株式会社にて特別顧問・SCM管掌を勤めた。現在は株式会社日本ロジスティクス研究所取締役を兼務する。本学では「サプライチェーンマネジメント概論B」「SCM-IT」を担当。

教授からのメッセージ

「あなたは何ができるのですか?」、「何が得意ですか?」。仕事でこんな質問を受ける事が今後ますます増えるであろう。

公的な資格や免許、外国語、パソコンの操作、各種の経験に裏付けられた技能、等々の返事が想定されるが、中には意地悪な質問と受け止める人が居ることも間違いない。

当大学院では、フィナンシャルプランナーを除けば、先述の質問に答えるための職能訓練をしている訳ではない。では、大学院では学生諸氏に、何を身に付けてもらおうとしているのだろうか。

私がサプライチェーンマネジメントの講義を通じて伝えたいのは、①事実を正確に把握して問題や課題を発掘し、②事実を解析、分析をして因果関係を見出し、③問題や課題の解決策を考案し、④解決に向けて行動を起し実行すること、の四点である。

何れも強い意思と情熱は当然のこととして、それに適した技術とツールを選択し使いこなすことが必要である。これを高いレベルで可能にしたのは、近年の情報通信技術(ICT)の劇的な発達に負う所が大きい。

殊に、④については、実行に先立ち、既存の人や組織に対して論理的に説明し納得を得ることが求められる。

当大学院が卒業の要件として課している論文の作成には、実は①から④までの過程を全て包含している。即ち、課題の発掘とこれに関する事実の調査は個々の学生諸君の役割であり、講義では解析や分析、そして解決策立案について多角的で具体的な知識と方法に触れることができるであろう。

最後に、此処までの思考結果を、図表やグラフを交えて、論理的で説得力のある論文に纏め上げる過程は、指導教官との真剣な議論を通じて達成される。この結果、時間、空間を超越した独創的な作品が生まれる。この一連の過程を成し遂げることによって、考える力、問題解決力、表現力といったマネジメントに必須の能力が涵養されるものと考えている。

二年間は決して十分な時間とは言えないが、実業の世界ではこんなに余裕のあるスケジュールは無いであろう。だが、一度論文作成を経験すれば、将来の仕事の進め方に大いに寄与するに違いない。

NEWS & REPORT

入学式

去る4月4日(土)午前10時よりバルテノン多摩にて入学式が挙行されました。

本年は多摩大学創立20周年の記念の年でもあり、例年と異なり学部生と合同開催となり博士課程1名、修士課程26名が入学されました。また本年4月より第5大学長として寺島学長が就任し、多摩大学の原点は実学志向の一業を志す人を育てる教育機関であるとの祝辞がありました。

午後からは多摩キャンパスに移動し、担当教員による講義概要の説明、履修ガイダンス、現役生によるオリエンテーションが行われ、早速翌週から始まる授業に備えて皆さん準備万端の様子でした。



入学式 大学院新入生代表挨拶

今春入学の大学院代28期生を代表して、ひと言抱負と決意を述べさせていただきます。

我々新入生は社会の第一線で専門分野の業務に就きながら、再度学びの場を求めて入学いたしました。

現下の状況は未曾有の不況に見舞われていますが、このような時代にこそ、ビジネスパーソンとして新たな経営のスキルや革新的なモノの考え方が必要であるということを実感しております。

私の専門分野であります公共経営、公共サービスに関するコンサルティングにおきましても困難な問題解決に対する相談が相次いでおります。

この時代を乗り切るには民間、公共、公益を問わず新しい業を起こす、いわゆる起業の精神で物事を発想し解決していくことが大切になっております。この起業を実践するためには、当然であります、最新かつ高度なマネジメントの手法を持って創造的に新しいことを考えていかなければなりません。

私がこのMBAコースへの入学を希望いたしましたのも、新しい公共サービスの起業を一日も早く実践に結び付けたいと思ったからです。



寺島学長が就任と同時に入学させていただくというご縁に感謝し、一業を起し、一業をマネジメントできる人材として羽ばたくことができるよう、仕事と学業を両立させて、これからの2年間を大切にそして大胆に目標に向かって過ごしていきたいと考えております。

最後になりましたが、学長、研究科長をはじめ、諸先生方また諸先輩方には厳しくも時に暖かいご指導をよろしくお願い申し上げます。

齋藤 彰(さいとう あきら):

岩手大学大学院工学研究科修士
パシフィックコンサルタンツ株式会社 社会政策本部
行政マネジメント部 NPMグループリーダー

イベントスケジュール

秋入学者向けイベントスケジュール

●大学院説明会

(基調講演・カリキュラム説明・事務局、現役生による入試相談)

- 第1回 6月25日(木) 19:00~21:00 基調講演「MBAで学ぶ意義」 寺島学長
 第2回 8月2日(日) 13:00~16:00 基調講演「知的プロフェッショナルへの戦略」 田坂教授



原田教授



松本教授

●公開授業&個別相談会 19:00~21:00

- 第1回 5月14日(木) 「コンテクストで競争に勝つ 一部族、辺境、物語」 原田教授
 第2回 5月29日(金) 「日本企業のSCM 一更なる進展に向けて」 松本教授
 第3回 6月10日(水) 「リアルオプションと経営戦略」 中岡客員教授
 第4回 7月17日(金) 「人材マネジメントの新潮流
 ー思いのマネジメント(MBB)」 徳岡教授
 第5回 7月30日(木) 「インテグレーションマネジメント概論
 ーヒエラルキー経営の呪縛を超えてー」 橋本研究科長



中岡客員教授



徳岡教授



橋本研究科長

※申込はホームページまたはお電話で。会場は全て品川サテライトキャンパスです。

<http://www.tama.ac.jp>

多摩キャンパス 042-337-7117

品川サテライトキャンパス 03-5769-4170

学位授与式

去る3月14日(土)第24回学位授与式が挙行され、29名の方が晴れて修了しました。野田学長代行と橋本研究科長から一人ひとりにお祝いの言葉とともに学位記が手渡されると、皆さん緊張しつつも、仕事と学業を両立した達成感から笑顔で答礼している姿がみられました。

また、修了生を代表して山中健司さんより研究科長をはじめ諸先生方への感謝の言葉とこれからの決意が述べられました。

恒例となった最優秀論文表彰では、奥原早苗さんと前田清一の2名が受賞されました。

アドミッションズオフィススタッフ一同も今後の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



アドミッションズオフィスから

平成21年秋(9月)入試日程

	AO入試	一般入試
募集定員	15名	5名
エントリー期間	現在受付中(8/21まで)	—
出願期間(エントリー)	二次面接合格(内定)後	7月15日(水)~25日(土)
試験日	随時	8月1日(土)・多摩
合格発表日	随時	8月3日(月)郵送
備考	筆記試験なし	筆記試験(和文小論文または英文解釈)

TGS 曆(冬~春)

4/4	春期入学式
4/18	履修登録締切
5/16	秋修了生修士論文等予備審査会
7/18	秋修了生修士論文提出締切
8/1	一般入試試験日
8/6	夏休み開始
8/8	秋修了生最終試験
8/21	AO入試エントリー締切
9/19	秋季学位授与式

AOエントリー受付開始しています!

例年AOエントリーは締切間際に集中する傾向があります。

本学のAO入試では入学後後悔しないよう、面接のプロセスの中で本学の教育システムを理解し、学習目標を明確化していただくための機会を数多くご用意しております。

エントリーをお考えの方はリードタイム(面接日程や手続きなど)を十分とっていただくためにもお早目のエントリーを強くお奨めいたします。

ホームページが全面リニューアルいたしました。

本年4月からの寺島新学長の就任、カリキュラムの見直しに併せてホームページを全面リニューアルいたしました。

是非一度ご参照ください。

<http://tgs.tama.ac.jp>

多摩大学rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



光國 光七郎

Koshichiro MITSUKUNI

多摩大学大学院客員教授

みつくに こうしちろう:

1950年生まれ。1985年創価大学通信教育部経済学部卒業。2000年大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。2006年株式会社製作所から株式会社コンサルティングに転職。現在マネージングディレクター。コンサルティングポイント在庫計画理論の開発者。専門分野のモデリング理論と技術を活用して大規模企業の経営統合や事業構造改革、在庫削減など経営改革の実績多数。2007年から多摩大学大学院客員教授、事業構造とコーポレートモデリング、SCMモデリングを担当。

教授からのメッセージ

多摩大学大学院の教員は実業界での実務経験豊富な先生が多い。実学を標榜し現代の志塾にふさわしい顔ぶれに、私自身、客員として列しているながらも、諸先生方に圧倒される。そして、実業で日々鍛えられている研究生の講義に臨む真剣さに圧倒される。ところが、修士論文執筆の話題になると、教員をも圧倒する迫力が萎えてしまうようである。気持ちは挑戦の意気が高いにもかかわらず、である。そこで、相談を受ける中で私が気づいた点を紹介し、修士論文執筆の一助になればと思う。

相談を受けて感ずることは、論じたいテーマ領域、書きたい内容についての夢は大きく志は高いが、書くという基本動作、能力との乖離が見られる。論文は文章を道具として使いこなして作り上げる作品である。筆と絵の具を道具にすれば絵画になる。材料と工具を道具とすれば工業製品ができる。実業界での経営上の話題をテーマに文章を駆使して作り上げるのが経営情報学領域の論文である。そこで、文章を作る基本動作についてのポイントを紹介する。

文は(主語+述語)で構成する。「○○は××である。」という40字程度の単純で明瞭な短い文をたくさん作る訓練をするとよい。ビジネスにおいてはキーワードをメモする習慣が普及しているが、キーワードだけだと主語だけ、または、述語だけになりやすく文としてフラグメンテーション(欠落)を起こしやすいので訓練としてはお勧めしない。

次は、修飾の仕方である。主語は一般に名詞を用いるので、修飾する語は形容詞が多い。形容詞は主語の前に置くと主部になる。また、述語は一般に動詞を用いるので、修飾する語は副詞が多い。副詞は述語の前に置くと述部になる。

文が作れると、文と文をつなぐ。これが文節である。

文をつなぐには接続詞を用いる。接続詞は論理構造を示すので論文においては重要な働きを持つ。論理構造はAND、OR、NOTの3要素が基本である。「したがって」「そこで」「および」「または」「しかし」「ゆえに」といった論理を構成する基本的な接続詞に限定して文節を作る訓練をお勧めする。論理構造を作る前提は、接続する文が(主語+述語)で文になっていることである。欠落した不完全な文を接続すると意味不明になる。また、ANDやNOTで接続する文の流れが論理矛盾していないことである。

文節ができるのと、複数の文節で段落を構成する。段落にはトップ、ボディ、コンクルージョンの3段落の原則がある。トップでは、述べたい結論を先に提示する。ボディでは、述べたいことを詳述する。コンクルージョンでは、述べたことを要約して次の章・節・項への導入のきっかけを示す。また、述べる内容の論点ごとにボディ段落を複数作成し、それらのボディ段落を、論理構造を示す接続詞でつないで論理を構成する。

段落より大きい単位は項である。実際の論文作成においては、最初に論文構成を章・節・項と立て分けていくので、項の中をトップ、ボディ、コンクルージョンの各段落で構成すると考えればよい。論文作成の相談では、章・節・項と大きいところから細分化して論文全体の構成を論理的に組み立てる思考プロセスと、文・文節・段落と作業を積み重ねていく作業プロセスが分解できていないこと、そして、文を作る基本訓練が不足しているのではないかと、感じる人が多い。

文章作成訓練は、日ごろの講義を受講する際にノートのとおり方をキーワードメモ方式から(主語+述語)の40字程度の文作成方式に切り替えるだけで実践可能である。試してみるとよい。論文作成は訓練によって誰にでもできるようになる。

NEWS & REPORT

●ホームページに情報を

追加いたしました。

過去に発行されたラポールのバックナンバーをアップいたしました。

また現役生、修了生の声もアップしております。

入学をご検討されている皆様にご参考になる情報が掲載されております。

是非一度ご参照ください。

●履修登録(春学期)の多い科目ベスト10

- ① ヒューマンリソースマネジメント概論A
- ② 比較文化論
- ③ 知識経営論
- ④ 人事・労務管理と職場のメンタルヘルス
- ⑤ 論文研究演習
- ⑤ 実践組織変革
- ⑦ ファイナンスマネジメント概論A
- ⑦ インテグレーションマネジメント概論
- ⑨ 社内コミュニケーション戦略
- ⑨ コーポレートモデリング

今期から、現実の問題の本質的解決に役立つ実学に重点を置くべくカリキュラムの大幅な見直しを行いました。

その中でも特にヒューマンリソース関連及び今年度より新設されたインテグレーションマネジメント関連の科目が多くの履修者を集めました。

まさに本学ならではの特徴的な科目群です。

イベントスケジュール

秋入学者向けイベントスケジュール

●大学院説明会

第2回 8月2日(日) 12:30~15:30 品川キャンパス

基調講演「知的プロフェッショナルへの戦略」 田坂 広志 教授
(その他カリキュラム説明・事務局、現役生による入試相談)

田坂 広志 (たさか ひろし) :

東京大学卒、同大学院修了。工学博士。米国シンクタンク・パテル記念研究所客員研究員、日本総合研究所取締役を経て現在シンクタンク・ソフィアバンク代表、社会起業家フォーラム代表。



田坂教授



●公開授業&個別相談会

第4回 7月17日(金) 19:00~21:00 品川キャンパス

「人材マネジメントの新潮流—思いのマネジメント(MBB)」

徳岡 晃一郎 教授

徳岡 晃一郎 (とくおか こういちろう) :

東京大学教養学部卒。日産自動車に入社後、人事部、欧州日産などを歴任。現在フレイシュマン・ヒラード・ジャパンSVP、パートナー。



徳岡教授



橋本研究科長

第5回 7月30日(木) 19:20~21:00 品川キャンパス

「インテグレーションマネジメント概論—ヒエラルキー経営の呪縛を超えて—」

橋本 忠夫 研究科長

橋本 忠夫 (はしもと ただお) :

京大(工)卒 工学博士 サントリーに入社後、戦略システム室長・事業部企画部長・商品開発研究所長・バイオライフサイエンス事業本部長・SCM本部長、元取締役、サントリー食品工業株式会社、サントリーロジスティクス(株)会長等を歴任。現在多摩大学大学院研究科長、日本ロジスティクスシステム学会評議員

※申込はホームページまたはお電話で。会場は全て品川サテライトキャンパスです。

<http://www.tama.ac.jp>

多摩キャンパス 042-337-7117

品川サテライトキャンパス 03-5769-4170

平成21年春新入生アンケート集計結果

本年4月に入学した院生にアンケートを行った結果がまとまりました。代表的な回答は以下の通りです。

1. 入学の目的、きっかけは?

- 自分の知識やノウハウを体系的にまとめたいと思ったから。
- ハードな経験を通じて自分を鍛えたかったから。
- 社会人経験も30年を過ぎ、自身の先行きを考えていたところに経済環境の変化が加わり入学を決意。

2. 本学を選んだ理由は?

- 日本で唯一SCMドメインを集中的に学ぶことができるから。
- 単なるスキルではなくリベラルアーツを含めた人間教育に魅力を感じたから。
- 社会人経験が長く、資格や出世にこだわらず、純粋に学び成長していきたいと思っている院生が多いように感じたから。

3. 入学前に大学院説明会や公開授業に参加した感想は?

- 講義内容を把握することができ、本学の趣旨を理解することができた。
- 自分の目的に合っていることを確認できた。
- 現役の院生の方から、資料では分からない生の情報を得ることができた。

4. 修了までに実現したいことやゴールは?

- 自分のバックグラウンドを確立して、起業に向けての一步を踏み出せるようにしたい。
- これまでのスキルを整理し、経験を理論化し、次のステージの方向性を見つけたい。
- 論文を納得いくように仕上げてみたい。

アドミッションズオフィスから

AOエントリーの締切は8月21日(金)です!

平成21年9月入学のAO入試も佳境に入り、いよいよ8月21日(金)がエントリーの締切となります。

このところエントリーが締切間際に集中する傾向がますます強まっております。我々アドミッションズオフィススタッフといたしましては是非ともお早めにエントリーシートをご提出いただき、余裕を持って面接日程を組みたいと考えております。

エントリーをしている方のイベント参加も可能ですので、迷っていらっしゃる方はまずはエントリーいただき、並行してイベントに参加しながらじっくりとご検討ください。

TGS 期(夏~秋)

7/11	研究実習届(夏休み)提出締切
7/18	9月修了予定者修士論文提出締切
8/1	一般入試試験日
8/6	夏休み開始(9/18まで)
8/8	9月修了予定者最終試験
8/21	AO入試エントリー締切
9/19	秋季学位授与式・秋季入学式
9/24	秋学期授業開始

多摩大学 rapport

RAPPORT (ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



寺島 実郎

Jitsuro Terashima
多摩大学学長

学長メッセージ

秋季入学式祝辞

皆さん入学おめでとうございます。

自分が活動する現場を社会に持ちながら、熱い志を持って大学院の門を叩かれたことに敬意を表します。

先ほど今秋の修了式に参列し一人ひとりに学位をお渡ししましたが、大変な努力をされて大学院での時間を過ごされたのでしょうか、全員充実感溢れる輝いた表情をされておりました。

そしてここに新たに29期生として皆さんを迎えましたが、これから本学でスタートを切るにあたり皆さんには自分なりの目的にプラスするに、是非世界を見る力というものをごここで養っていただきたいと思えます。世界を大きく見渡し日常性から脱皮して世界の情勢がどう動いているかということをご新たな問題意識で捉え、時代が抱えている課題をより深く見抜く機会としてこの大学院を大いに活用していただきたいと思えます。

もう一つはこれから学ぶ2年間を有効に活用し、多摩大学全体が持っている知のネットワークを肥やしにして、したたかに自分の新たな展開の礎を築いていただきたい

と思います。仕事や社会における様々な問題を解決していくためには、専門的な深い知識とそれを支えてくれる人たちのネットワークによるサポートが絶対に必要になります。今後皆さんがより大きな仕事ができるようになるために本学での学びの期間を戦略的に活用していただきたいということを強く希望します。

時代は大きな転換期に入っております。つい2年前には日本企業は史上最高益を享受していましたが1年後あつという間に世界同時不況が起こりました。これはただ単に景気の変動というだけではなく、明らかに世界の構造が変化しているということです。それをしっかり見抜いて、時代認識を深めて次なる展開に生かしていただくためにこの大学院での勉学を是非集中してやっていただきたいと思えます。

今日皆さんの心の中に抱えている志を忘れず、自分の目標を遂げるまであきらめず努力されることを願って私の入学の言葉にさせていただきます。

秋季学位授与&修士論文タイトル

秋季学位授与式

秋らしい陽気の9月19日(土)に第25回学位授与式が挙行され、寺島学長と橋本研究科長から、一人ひとりにお祝いの言葉とともに学位記が手渡され、晴れて16名のMBAホルダーが新たに誕生いたしました。また4年半ぶりに博士課程の修了生が1名誕生いたしました。仕事と学業を両立させた達成感あふれる充実した表情がとて印象的でした。

また、それを支えたご家族の参列者からも、壇上での証書の授与に一人ひとり暖かい拍手が沸いていました。

式中で優秀論文表彰も行われ次の2名の方が受賞されました。(敬称略)

塩見 雄亮
谷口 功一



秋季修了生・論文テーマ (サブタイトル略)

<博士>◎オーケストラ指揮者の多元的知性研究

<修士>

- コンテクストのマーケティングリサーチについての研究
- カーボンナノチューブにおけるオープン型研究開発モデルの研究
- 消費者間コミュニケーションの影響力増大に対応した広告コミュニケーションモデルの研究
- 加工食品流通における省エネ原単位
- 温室効果ガス排出権取引戦略に関する研究

- 読者論的視点で捉えたドラッカー思想
- イスラム金融会計基準と国際会計基準の関係に関する研究
- Innovation Opportunities in Developing World and Corporate Social Responsibility
- 外資系物流会社の日本における効果的な3PL展開の考察
- 低温食品業界において3PL事業者が競争優位に立つための荷主企業とのパートナーシップ進化・伸展に関する研究
- 強いGE Valueを持つリーダーの作り方
- 理念型中小企業の研究
- 商品の情緒的価値を高める組織やプロセスのあり方の研究
- インターネットサービスにおける贈与文化の研究
- テクノロジーに支えられた場が知の変換過程に及ぼす影響についての研究
- 企業存続の計略考。万能感と攻勢終末点に注目して。

●印優秀論文賞

平成21年度 春修了生アンケート集計

今春修了生に聞きました!

MBAでの学びによって昇格・転職などあなたのビジネスライフに変化をもたらしましたか?

(自由記述・コメント抜粋)

- 希望の外資系企業に転職できました。
- 学会活動や各種勉強会へ自分の問題意識のぶつけ方がわかるようになりました。
- 企業に所属しているが、様々な部署からの業務の依頼や相談事が増えました。
- 転職活動の際、提出した事業計画案が高評価を得ることができ無事希望が叶いました。
- 教授の紹介で転職し、希望の新規事業開発を行っています。
- 一部部長として責任ある仕事を任されています。

- 経営陣が全てMBAホルダーである外資系のコンサルティング会社に出向しており、学んだ知識と知恵が実践で生きています。
- 金融機関に勤務しておりますが、おかげさまで主任研究員となりました。
- 修了と同時に独立起業しました。
- 修士論文のテーマを評価され、赤字部門の立て直し業務に任じられました。
- 特に変化ありません(4名)
- 業務達成度が評価され昇給しました。
- 希望部署への異動は叶いませんでしたが、組織学会で発表の機会を得ました。
- 即効性はないですが、学んだことから思考の深まりにつながり自分自身の変化を日々実感しています。
- 在学中に培った人的ネットワークが営業に役立っております。

(平成21年3月修了生29名のうち回答者18名)

年内イベントスケジュール

● 公開授業&個別相談会

第1回 10月22日(木) 19:00~21:00 原田 保 教授
「コンテキストで読み解くブランディング —いいちこ、黒川温泉、葛巻町を捉えて—」



原田 保 (はらだ たもつ)
早稲田大学政治経済学部卒。
(株)西武百貨店取締役(企画室長等)、
香川大学経済学部教授(経営戦略論等)
を経て、現職に至る。専門は、戦略研究、
文化評論。

第2回 11月5日(木) 19:00~21:00 松本忠雄 教授
「経営とSCM —マネジメントに必要な諸技術について—」



松本 忠雄 (まつもと ただお)
大阪大学理学部化学科卒。同大学院理学研究
科博士課程中退。花王(株)に入社。栃木総合
研究所長、川崎工場長を経て、取締役ロジス
ティクス部門統括を歴任。この間、花王システ
ム物流(株)および花王ロジスティクス(株)
代表取締役社長を務めた。社外では、JILS、国
交省、経団連の委員会等において活動。

第3回 12月3日(木) 19:00~21:00 金子智朗 客員教授
「管理会計とは何か —それを知らなきゃ経営はできない—」



金子 智朗 (かねこ ともあき)
公認会計士、税理士。ブライトワイズコン
サルティング合同会社代表社員。
東京大学工学部卒業、東京大学大学院修
士課程修了。日本航空株式会社、プライス
ウォーターハウスクーパーズコンサルタント
等を経て独立。

第4回 12月16日(水) 19:00~21:00 本間浩輔 客員教授
「キャリアのマネジメント —MBAで学ぶキャリア戦略—」



本間 浩輔 (ほんま こうすけ)
ヤフー株式会社、メディア事業部ビジネス
開発部長。早大卒業後、野村総合研究所
を経て、スポーツ・ナビゲーションの起業
に参加。同社のヤフーグループ入りとともに
ヤフーに転籍、現在に至る。体育学修
士・教育学修士(ともに筑波大学)

● 大学院説明会

第1回 11月19日(木) 19:00~21:00
・基調講演「知識リーダーシップの時代」 紺野 登 教授
パネルディスカッション「2020年に求められる人材」
紺野 登 教授 徳岡晃一郎 教授 橋本大也 客員教授



紺野 登 (こんの のぼる)
早稲田大学理工学部卒。
博士(経営情報学)。KIRO(株)代表。知
識経営、デザイン戦略、リーダーシップ開
発等の実務と研究、企業のアドバイザーを
務める。



橋本 大也 (はしもと だいや)
ITコンサルタント、起業家。
データセクション代表取締役、早稲田情
報技術研究所取締役ほか数社のITベン
チャーの役員を兼務。



徳岡 晃一郎 (とくおか こういちろう)
東京大学教養学部卒。
日産自動車入社後、人事部門、欧州日産
などを歴任。現在フライシュマン・ヒラー
ド・ジャパンSVP、パートナー。人事制
度、社内コミュニケーション、企業変革な
どを担当。

※申込はホームページまたはお電話で。
会場はすべて品川サテライトキャンパスです。
<http://www.tama.ac.jp>
多摩キャンパス 042-337-7117
品川サテライトキャンパス 03-5769-4170

アドミッションズオフィスから

来春入学AO入試エントリー受付開始!

秋の気配色濃い9月19日(土)に学位授与式と入学式が同日に行われまし
た。目標を達成した充実感溢れる表情をした修了生と大きな期待と若干の不安
を胸に緊張した面持ちの新入生の対応で、我々オフィススタッフも大忙しの一
日でした。

今回のエントリーの最年少は30歳、最年長は60歳で平均年齢はちょうど40
歳でした。分布は30代10名、40代7名、50代2名、60代1名となっています。
個人事業主が4名おられました。企業にお勤めのミドルマネージャーの方が
目立ちました。

今年はシルバーウィークの連休明けから通常授業開始、10月1日より来春入
学のAO入試のエントリー受付も始まり、お問い合わせのお電話やメールでの
対応に慌しい毎日です。

本学が導入しているAO入試は、実学重視の教育方針に沿って、出願時の提
出課題(書類)を少なくすることによって事前の準備の負担を軽減し、知識・能
力とともに職業歴や学習意欲、問題意識を重視した面接で合否判定するという
多忙な社会人の方に相応しいシステムと考え実施しております。

また本学の教育システムとのマッチングも判定基準のひとつになっておりま
す。筆記試験を課さないことを補うため、AO入試へのエントリーの前に説明会
や公開授業への参加を促し、本学についての事前の知識や理解をもって面接を
受けていただけるよう配慮しております。

来春入学向けのイベントを上記のスケジュールで開催いたしますので、ご
都合に合わせてぜひご参加ください。お申込はホームページより受付ており
ます(URL: <http://www.tama.ac.jp/>)。

スタッフ一同お待ちしております。

平成22年春入学 入試スケジュール

AO入試(募集定員30名)

- エントリー期間 平成22年2月28日まで(現在受付中)
- 一次面接 日時は打合せによる
- 二次面接 日時は打合せによる
- 出願期間 原則として内定後2週間以内
- 合格発表 原則として出願後1週間以内(郵送)
- 入学手続 原則として合格後2週間以内

一般入試(募集定員10名)

- 出願期間 平成22年1月20日~1月29日
- 一次選考 書類審査(研究計画書)
- 二次選考 平成22年2月6日
筆記試験及び面接
※筆記試験は英文解釈または
和文小論文を選択(時間90分)
- 合格発表 平成22年2月8日(郵送)
- 入学手続 平成22年2月9日~平成22年2月24日

TGS 暦

10/24	春修了予定者修士論文等 予備審査会
12/19	春休み研究実習届締切
12/23	冬休み(1/3まで)
1/23	修士論文提出締切
2/ 9	春休み(3/31まで)
2/13	春修了予定者最終試験
3/13	学位授与式

両入試とも詳細は募集要項をご参照ください。募集要項はホームページから取り寄せることができます。(無料)
<http://tgs.tama.ac.jp>